

協力し合い、理解し合い、 生き生きと暮らせるように

児童施設 筑峯学園

施設長 岡野 美智子

今年も残すところあとわずかに
なっていました。今年のはじめ
に何を願ひ、何を誓ったのか、思い
出すこともできないくらい駆け足
の様な日々でした。

それにしても知らないうちに国
の方では後世に尾を引くような重
要な法案が可決され、現在でもカジ
ノやらが十分に論議されずにいる
ような状態。色々危惧はするもの
の私達の暮らしが健康で安全な文化
的な生活が送れることを願うばか
りです。

さて、児童施設は入所者が40名
となり、短期入所、日中一時サービ
スの利用者の方も多くなっております。
入所に至る理由は個々であり
ますが、入所後、皆が生活に慣れ、
安定した心情で園生同士が仲良く
助け合い、自己を表出し、それを理

解し、実現できる環境をつくる事が
肝要だと思いますが、なかなか難し
く時間がかかります。入所に至る以
前で彼らがどのような環境で生活
し人間関係を構築してきたのか、良
く知っていく必要があると思いま
す。それは、保護者への指摘ではな
く、共に今後も養育を共有していく
という意味で大事な事と思ってお
ります。

子どもは様々な問題や症状を示
しますが、それらには必ず背景があ
り、子ども自身の生きにくさの表れ
でもあります。子どもたちの抱えた
背景を理解し、またあわせて障害も
正しく理解し、この子らが生き生き
と暮らせるよう細かく支援をして
いく大切さを思っております。

11月に児童施設でノロウイル
スが発症し、十数名が集団感染して

しまいました。幸いにして給食関係
者の発症はなく、食事の供給はいっ
も通り出来ました。感染マニュアル
に則り、保健所の指導のもと、重篤
者を出さずにすみました。やっと終
息だと思ったのも束の間、今度は水
疱瘡に3名、おたふく風邪に2名罹
りました。罹った子ども達には可哀
そうでしたが、隔離して過ごしても
らい現在は全員完治しています。今、
園内ではこれでやっと無事お正月
を迎えられるという安堵感に浸っ
ております。そしてこの間、次亜塩
素で学園中消毒し、手洗い、うがい
を行い、こどもたちへの衛生の大切
を職員が常に心掛けていかなけれ
ばならないと痛感いたしました。

12月に40名定員が満床とな
るのを機会に2部屋の畳を取り換
えました。新しい畳になって子ども
たちは大喜び、畳屋さんが作った畳
を部屋に入れていく作業を飽きず
に眺めておりました。息子さんが畳
屋さんの跡取りになってお父様と
一緒に仕事をし、自分たちと年齢が
近いであろう息子さんの言葉遣い
やきびきびした態度を見て学卒者
は感ずるところがあったようです

た。百聞は一見にしかずと申しま
すが、私たちが言葉遣いなど気にする
理由もわかってくれたようです。そ
の気持ちが続いてくれるといいの
ですが・・・

学齢児の子どもたちは身長も伸
び、ズボンの丈等すぐ変わってしま
ったり、足もすぐ大きくなったりと
ご父兄の皆様には協力いただきこ
とも多く申し訳ございません。入所
してからほとんど好き嫌いなく食
事をとり、睡眠リズムもとれ、学校
で学び、運動できる日々の中で心身
共に成長しています。

私が気になる点の一つに物を大
事にしない傾向があるように思
います。洗濯機、テレビ、ラジカセな
ど共有で使う電化製品や、椅子、テ
ーブル、学用品などを壊したり、失
くしても困らなかつたり、いいじゃ
ないか又買えばといった調子で受
けとめており、子どもたちに物の大
事さ、お金の大事さを教えていくこ
とが難しく思います。ご家庭ですら、
生活に直結する部分も多く上手
にわからせると思います。園では大
事にしないとお金が無くなつてみ
んなが楽しみにしているスキーや

キャンプに行けなくなつちやうよと伝えたりしています。

この子たちの将来を考えるとお金を無造作に使う習慣ではなく、必要なもの、好きなものを購入し大事に使っていく事を身に付けさせたいと思います。

つくほうだより

今年も、キャンプ、運動会、収穫祭等々の行事において、多くの方々のご協力を得ることができました。ボランティアとして来ていただいた常盤短期大学、筑波研究学園専門学校、学校の学生の皆様、保護者の皆様はじめ多くの皆様、有難うございました。おかげ様で、どの行事も楽しく、無事に終わることができました。一人一人が大事にされ、皆が協力して生きていける学園生活、また地域社会を目指して誠実に努力してまいりたいと思います。

今年ももう12月、年々一年が早く感じるのは歳のせいでしょうか？いいえ、支援センター未来の日々が充実しているからでしょう！
今年度、障害者支援センター未来は4名の新たな利用者を迎え、総勢69名の事業所になりました。今年度も、変わらず地域の耕作放棄地の再生、耕作を請け負った田畑での農作業やその周辺にある放置竹林の整備、また、つくほうの森の開拓整備や原木椎茸づくり、果樹の栽培などの山林作業など日々大自然の中で活動しています。今年度は新たに施設外就労の場として筑波大学のセキショウフィールド（旧第二サッカ―場）の清掃や（株）みらいファームでのサツマイモ生産作業などの機会が増えました。より就労に近い形

「働く」意義を学んだ 充実の2016年

障害者支援センター未来

センター長 松島 寿樹

での作業で「働く」ことの大変さや楽しみを感じながら、参加した利用者は山あり谷あり頑張ることができています。

また、今年度も新しい支援員が増えました。職員それぞれ利用者との信頼関係の構築に苦慮している姿も見受けられます。利用者と関わる職員一人一人が通る道ですが、利用者も職員も「相手を知る」ことが出来ないとうまくコミュニケーションが取れません。お互い相手を尊重すること、意思を表出すること、受容すること・・・言語以外のコミュニケーションも含め、利用者と支援員という関係ではなく「ひと」と「ひと」としての関係づくり、お互い五感で向き合い、様々な葛藤を越え、「お互いに育ち合う」より良い関係を構築していつてもらいたいと思

います。

11月に開催した収穫祭には多数の保護者の皆様にご参加いただき、ありがとうございます。今年のはつくほうの森に加え、新たに平沢作業所も利用し、園生の年間の様子をスライドショーで上映するシアターコーナーや足湯コーナーを新設しました。昼食を食べる場所についても少しゆとりができたかと思えます。また新たな試みとして保護者会で喫茶コーナーを運営していただきました。保護者会役員の方々をはじめ準備運営に携わっていただいた保護者の皆様、ありがとうございます。まだまだ改善点はありますが、今後も利用者や保護者をはじめ、筑波学園に関係する皆様が笑顔になれるような行事を開催できるように努めてまいりたいと思います。

来年もつくほう米作り、野菜づくり、原木椎茸づくり、果樹栽培、つくほうの森整備など雄大な自然の中での作業を通して、利用者さん一人ひとりが仲間と共にやりがいを感じながら活動に参加出来るように様々なことに挑戦していきたい

と思います。今後も障害者支援センター未来を発展させていけるように職員・利用者共々、創意工夫をしながら取り組んでいきたいと思えます。

最後に今年も保護者の皆様、後援会の皆様、関係者の皆様、様々な面でご協力いただき本当にありがとうございます。2017年もよろしくお願いたします。よいお年をお迎えください。

グループホーム職員の資質と チーム力の向上をめざして

グループホームホットハウス

施設長 松山 金寿

年の瀬も押し迫ってまいりましたが、皆様は、いかがお過ごしでしょうか。ほっとハウス平沢から見える山々の木々も葉を落とし、冬の景色となつてまいりました。また、空気の澄んだ晴天の日には、西の方向に富士山の姿も望む事が出来ます。皆様にも、こちらにお越しの際には、冬の景観を楽しんで頂ければ幸いです。

ホットハウスの状況ですが、消防法改正にともない、このたび作谷にも非常通報装置、自動火災報知機を設置致しました。引き続き、防災、安全管理に努めたいと思えます。

利用者様の様子ですが、作谷、平沢共に、元気に日々の生活を過ごしております。先日は、買い物外出にも出かけ、それぞれが作業用品や生活用品等、思い思いの趣味嗜好品を

購入し、楽しんできたようでした。また、年末にはクリスマス会も計画しており、日々の会話からも、ケーキやプレゼントを非常に楽しみにしている様子がみられます。また、現在のところ、インフルエンザやウイルス性胃腸炎等の感染症の集団発生はありませんが、これからの季節、発生しやすくなつてきますので、ほっとハウスでも感染予防に努め、利用者様の日々の様子をみながら、健康管理に配慮していきたいと思っております。

利用者様が安心して健康に生活を送る場を提供し、利用者様本人がより良く生活が出来ることを考え続ける事が、私たち支援者の務めと考えております。今年7月、相模原市内の障害者施設で元職員による殺傷事件が起きました。この事件は、

重度の障害者を人に非ずとした、自分本位の考え方から起こった悲劇であると思えます。私たちも同じく障害を有する方々と生活をしていく立場として、深く考えさせられます。たとえ健常であろうが、障害を持つていようが、この社会に生を受けたことに何ら変わりはなく、一人の人間としての価値も変わらないと思えます。障害の重い、軽いに関係なく、一人の人間として尊び、どんな人でも、その人が幸せに暮らしていける様になるためには、私たち支援者は力を惜しまないことが大切であると思えます。

利用者様と関わるなかで、すぐに関係や本人の行動に変化があるわけではなく、職員の思うようにいかない事もあつて、職員はしんどいと思う事もあると思えます。しかし、利用者様と関係を築くことが出来たと感じる時、生活の中で積み重ねたものが目に見える時等、利用者様の変化に気が付いた時には嬉しく思い、それが更に一人一人との関係を深めていく力になつていくものだと思います。福祉の仕事に携わっていく上で、常に自分たちの存在は

何かを問い続け、利用者を第一に考えながら視野を広く深く持つて自己研鑽をしていき、グループホーム職員としてのチーム力を高めていかねばならぬと痛感しております。引き続き、皆様方のあたたかいご支援を頂ければ幸いです。それでは、どうぞ良いお年をお迎えください。

障害福祉

あんしん相談

相談支援事業所 筑峯学園

所長 武田 真浩

今年も残すところあと僅かとなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

相談支援事業所からは、今回は「障害福祉あんしん相談」についてご紹介させていただきます。

障害福祉あんしん相談は、当法人にて実施している事業ではなく、つくば市内の相談支援事業所を中心に実施している相談体制となります。

平成25年10月から開室しており、障害福祉サービスの利用の方や、情報の提供、日常生活で不安なこと等、地域で生活していくための福祉全般の相談に相談支援専門員等が応じています。

市内には現在11ヶ所の相談支援事業所があり、各相談支援事業所

の相談員が当番制で交代で対応しております。

対象は、身体・知的・精神・発達障害や難病のある方（障害者手帳の有無や年齢等は問いません）とその家族、関係機関の方などになります。日時は、第2・4木曜日の月2回、午前10時〜午後4時まで。場所は、つくば市役所の会議室をお借りして実施しております。相談は無料となります。問い合わせや申し込みは、つくば市の障害福祉課が窓口となっております。お問い合わせや申し込みは、つくば市の障害福祉課が窓口となっております。お問い合わせや申し込みは、つくば市の障害福祉課が窓口となっております。

障害福祉あんしん相談は、基本的につくば市在住の方が対象となりますが、お住まいの市町村においても似たような取り組みを行なっているところがあると思いますので、各市町村の障害福祉課へお問い合わせ

せていただければ、情報を得ることができると思います。または、近隣の相談支援事業所を活用してみてください。

市役所に問い合わせるのは気が引ける・・・、近隣の相談支援事業所と言われてもよくわからない・・・などと思われる方は、まずはお気軽に「相談支援事業所 筑峯学園」までご連絡、お問合せ下さい。

福祉制度も複雑になっていてわかりづらいところがあるかと思いますが、こんなこと聞いてもいいのか？などとは思わずに、ちょっとしたことでも聞いたり相談したりできる場所が身近にあると便利かと思えますので、相談支援をご活用していただけたいと思います。

皆様方には今年も大変お世話になりました。至らないところも多々あったかと思われませんが、引き続き皆さんにとって相談しやすい事業所を目指して取り組んでいきたいと思っておりますので、今後共よろしくお願いたします。どうぞよいお年をお迎えください。